

令和7年度
すくわくプログラム活動報告書
(実施対象：2歳児クラス)

モニカ人形町園

M  nica

テーマ

砂と出会う

設定理由

秋に入り、自然物を集める等の活動を取り入れていた中で、木村楓さんが来園し、探究活動のサポートをするお話を頂く。1回目のミーティングで、

- ・子ども達が自然物集めを楽しむ中で、砂にも興味を示して集める姿が見られたこと
- ・地面を触って砂の感触を楽しむ様子や、地面でお絵かき遊びをよくしていたことなどから、砂の探究を行うことに決定した。

対象クラス

2歳児クラス・12名

活動のねらい

砂の感触や性質を知り、遊びを豊かに広げる

キーワード

「何の形になった？」
「硬い？柔らかい？」
「どんな音がする？」
「砂で何ができる？」

活動期間

令和7年11月～令和8年2月

活動回数

計4回

砂の探究 砂と出会う

黒の画用紙と砂のみを使い、「砂と出会う」をテーマにして、活動に取り組みました。これまで遊んでいた公園の砂場や広場の砂とは違い、よりシンプルな環境で砂に触れることで、これまで気付いていなかった、砂の性質や感触、砂との関わりが子どもたちに見られました。



指でつまんで画用紙の上に落としてみる。
どんな音がするかな？
どう散らばっていくかな？
それぞれの言葉で教えてください。



広げる、散らす、吹く、叩く、模様を描く。
目で見たり、音を聞いたり、感触を感じたりし、遊ぶ中で、たえず新しい気づきや発見があったようで、30分間、集中して砂に触り続けた子どもたち。



子どもたちが長時間集中して遊ぶ姿を見て、「子どもにとって砂ってこんなに面白いんだ」と気付くことができました。子どもから、砂の遊び方の可能性や豊かさを教えてもらい、保育者も「砂と出会う」事が出来たように思います。今回の活動を、保育の中で、砂場遊びや砂との関わりに活かしていこうと思います。

なにがみえる？

「キラキラしてるよ。」

「(落とすと) おとがするね。」

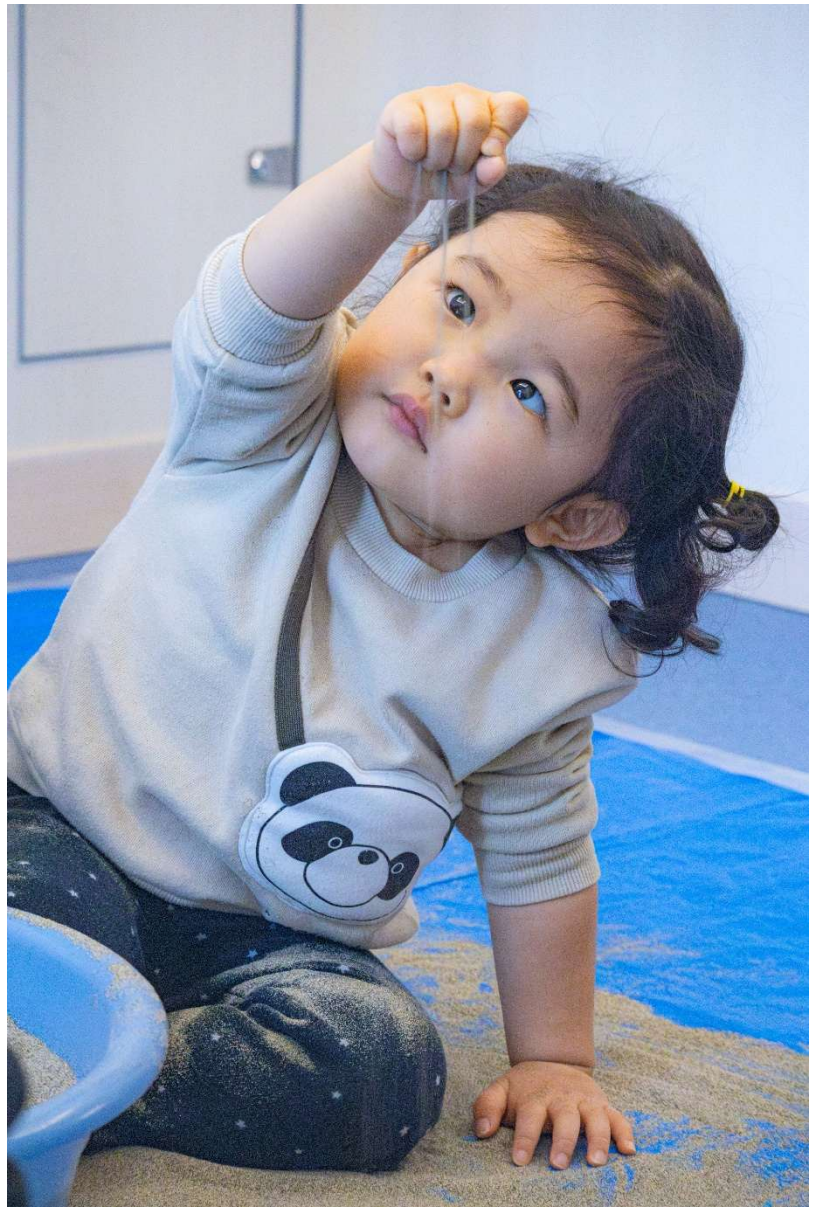
「あめだー！」

砂と出会い、じっくり関わって遊ぶ子どもたち。前回と同じ遊び方でも、光と影の力を借りて、新たな砂の一面に気付くことができました。



砂を感じる

まるで吸い込まれていくように
砂に心奪われていく子どもたち
浴びる 埋もれる 押す 流す
気付けば全身砂まみれ
こんなに砂と仲良くなれたね
また一緒に遊ぼうね



砂と一緒に 夢中に出会う

同じように見える1つの動きでも

こぼして床に当たる“音”
手からこぼれていく“感触”
流れていくような砂の“動き”

惹かれているポイントは
1人ひとり違って見えました。



手から砂をこぼす



言葉では表現しきれない砂の魅力



ですが
子どもたちの真剣な眼差しや
集中して遊ぶ姿から
砂の持つ魅力が伝わってきました。

環境構成

以下、初回の環境構成（以降は振り返り時に次の環境を決定）

- ・グループ分けを行い、少人数で実施する。（初回4名3グループ）
- ・1時間30分で実施し、30分毎にグループを交代する。
- ・4つ切りサイズの黒画用紙の上に砂をこぶし大の量の砂を乗せ、子どもが自由に触って遊ぶ。
- ・テーブル短辺の端と端に2人が向かい合って座り、相手のやっていることを見て真似し合えるようにする。
- ・テーブルの下にはブルーシートを敷いておく。

使用物

砂 | 黒画用紙・4つ切りサイズ(12) | テーブル(2) | 椅子(4) | ブルーシート(2)

テーマ：砂と出会う

全体の振り返り

シンプルな環境構成の中でどれだけ遊べるのか分からなかったが、子どもは30分集中して取り組み、砂との様々な関わりを実践していた。両手を使って砂を伸ばしたり、叩く、吹くなどして砂を飛ばしたり、画用紙を持ち上げて砂を寄せる等様々な関わりが見られ、中には交代せず1時間砂で遊んでいる子もいた。言葉掛けに迷うこともあったが、子どもと同じ関わりを砂にすることで、その子どもが自分の遊びを肯定されたと感じられるので言葉に困ったらそれでよいとの事だった。

終



株式会社モニカ

〒105-0004
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

モニカ人形町園

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町3-4-8
アイビーコート日本橋人形町
TEL:03-6264-9244
FAX:03-6264-9245